

## 霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
地域火山監視・警報センター  
鹿児島地方气象台

< 噴火警戒レベル 3（入山規制）が継続 >

本日（11 日）、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した降灰調査では、宮崎市、都城市、小林市、高原町で降灰を確認しました。高原町広原付近では、やや多量（1 m<sup>2</sup>あたり 272g）の降灰が確認されました。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は 1 日あたり 800 トンで、新燃岳で火山ガス（二酸化硫黄）を検出したのは 2012 年 9 月 26 日以来です。

【防災上の警戒事項等】

新燃岳の火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。

### 活動概況

#### ・降灰の状況（図 1、図 2）

気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した降灰調査では、宮崎市、都城市、小林市、高原町で降灰を確認しました。新燃岳火口から東に約 50km 離れた宮崎地方气象台でもごくわずかな降灰を確認しました。また、火口から東北東に約 8 km の高原町広原付近では、やや多量（1 m<sup>2</sup>あたり 272g）の降灰が確認されました。

#### ・火山ガスの状況（図 3）

気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は 1 日あたり 800 トンでした（前回 2017 年 10 月 7 日は検出限界未満、最後に検出されたのは 2012 年 9 月 26 日 10 トン）。

---

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（[http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、東京大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び宮崎県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』、『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

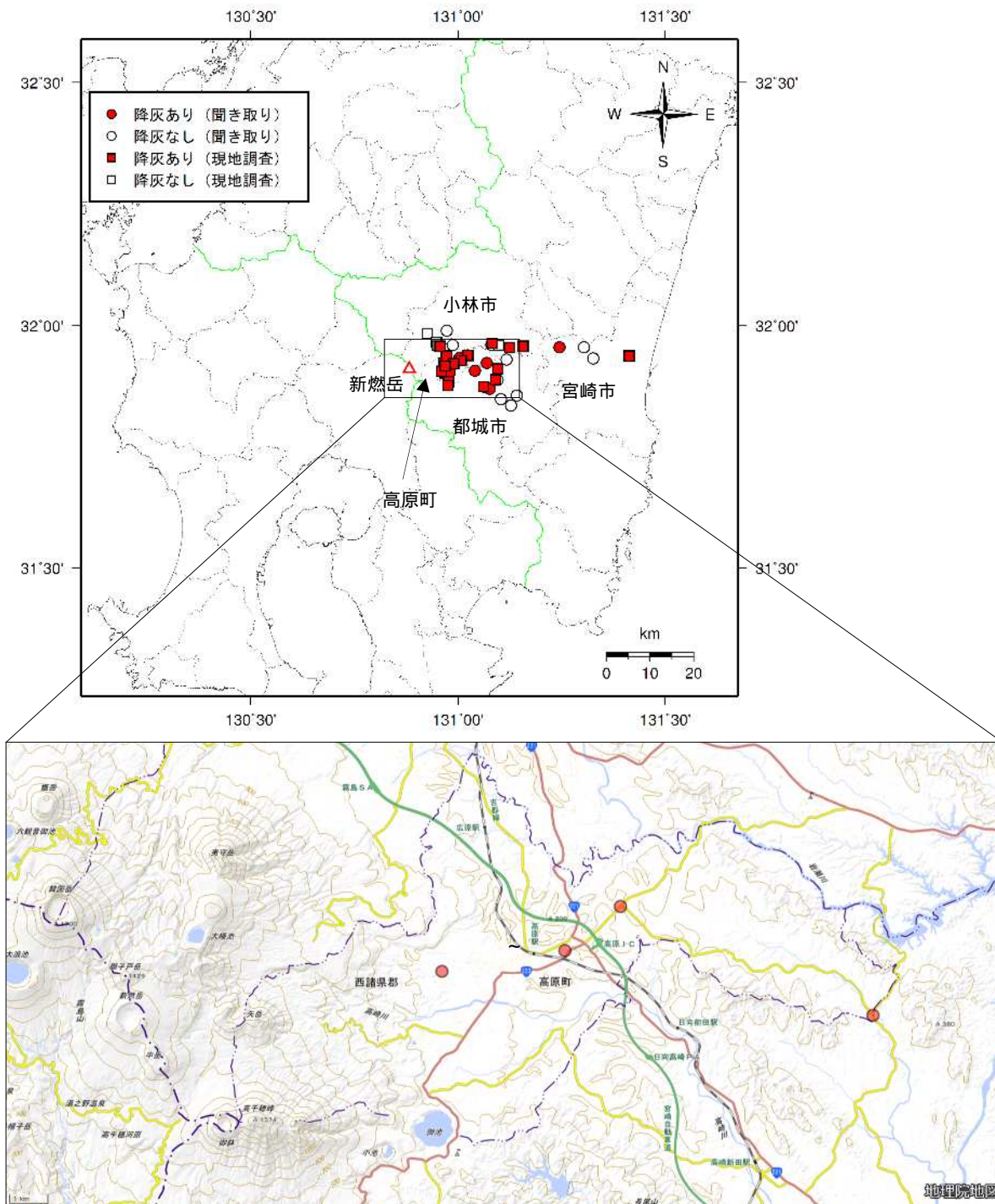


図 1 霧島山（新燃岳）降灰分布図及び図 2 写真の撮影位置図（2017 年 10 月 11 日 17 時現在）  
気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した降灰調査では、宮崎市、都城市、小林市、  
高原町で降灰を確認しました。





図2 霧島山（新燃岳） 降灰の状況  
高原町広原付近（上段左）では、やや多量（1㎡あたり272g）の降灰が確認されました。

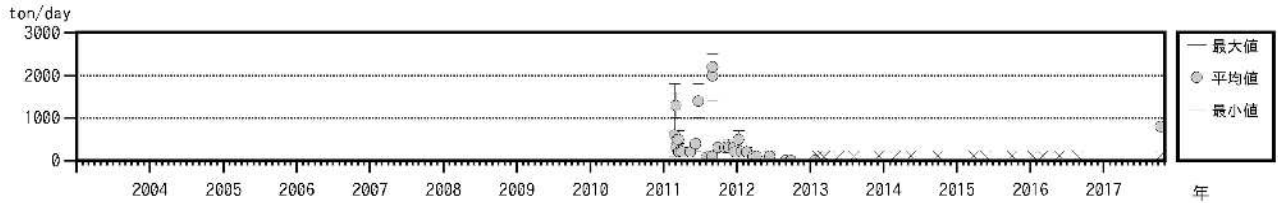


図 3 霧島山（新燃岳） 火山ガスの観測状況

気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は 1 日あたり 800 トンでした（前回 2017 年 10 月 7 日は不検出、最後に検出されたのは 2012 年 9 月 26 日 10 トン）。

× は検出限界未満を示す

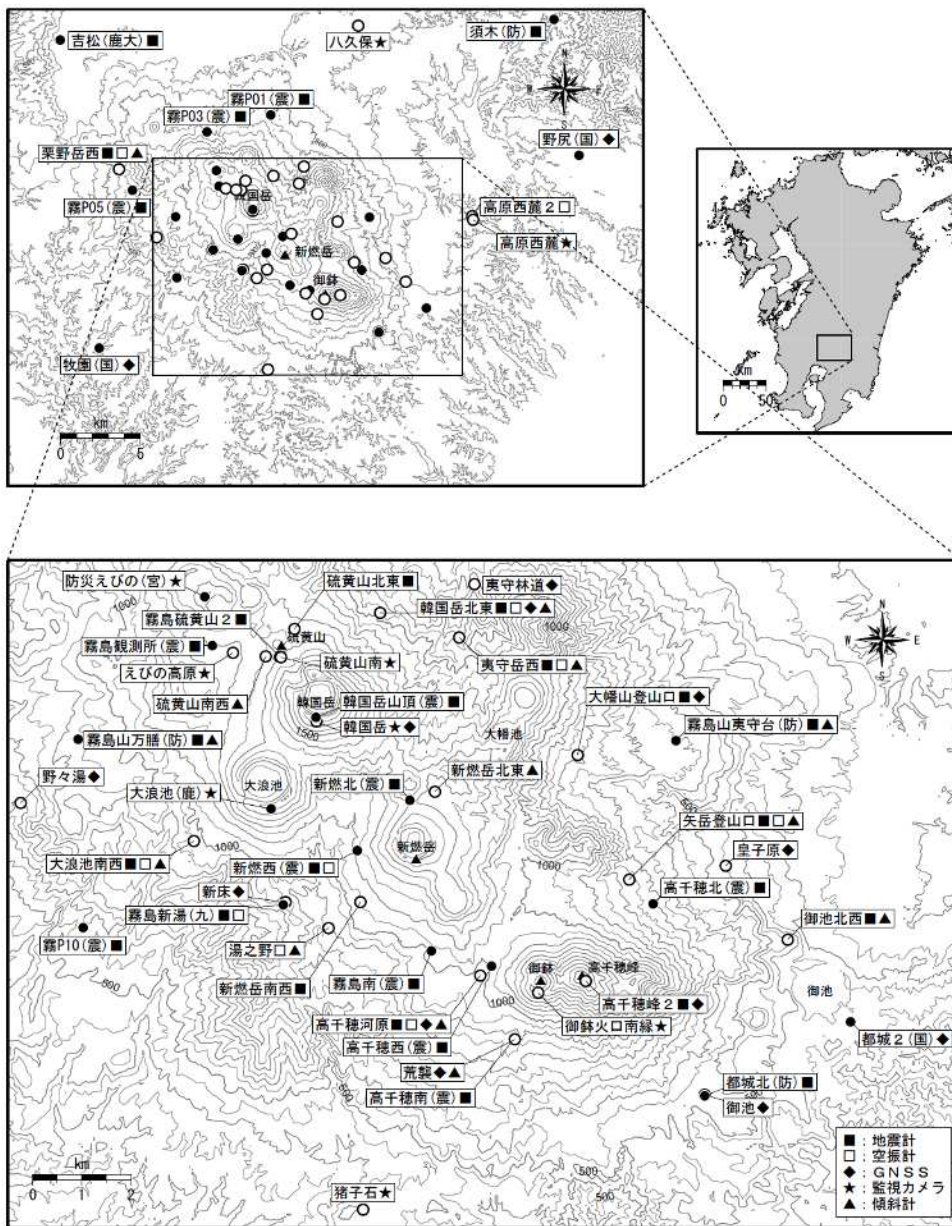


図 4 霧島山 観測点配置図

小さな白丸（ ）は気象庁、小さな黒丸（ ）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
（国）：国土院、（防）：防災科学技術研究所、（震）：東京大学地震研究所  
（九）：九州大学、（鹿大）：鹿児島大学、（宮）：宮崎県、（鹿）：鹿児島県